

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170700450		
法人名	企業組合 巣南グループホーム		
事業所名	グループホーム すなみ		
所在地	〒501-0322 岐阜県瑞穂市古橋1357-1 (電話) 058-328-6201		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年10月3日(水)	評価確定日	平成19年10月29日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 15 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人 常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.5 人		

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	900~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有100,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 15 日 現在)

利用者人数	5 名	男性	0 名	女性	5 名	
要介護 1	0 名	要介護 2	3 名			
要介護 3	1 名	要介護 4	1 名			
要介護 5	名		要支援 2	0 名		
年齢	平均	89 歳	最低	83 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木クリニック・国枝医院・辻歯科医院・朝日大学病院(緊急時)
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1ユニットで少人数のホームは開設時より同じ職員であり、家庭的な環境をそのまま残した平屋に居室を増築した民家改修型である。居間から続く菜園には野菜が作られ、実のなる木々も多い。管理者宅も同じ敷地内にあり、人が多く集まる行事等に提供される。利用者の歩行力の継続を大切にケアの方針で、「出来るだけ自分で歩く」ための安全な歩行への支援に力を入れている。日課の公園への散歩では、出会った人と挨拶をしたり、子供達からの声掛けを得、楽しんでいる。地元との関わりは深く、運営推進会議に近隣の人達も多く参加している。神社の祭には地元の各団体はそれぞれ店を出ず慣わしで、利用者も作品を作って参加し、祭を見に行く。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議で報告し、広く参加者から意見をもらい日常のケアにむすびつけるよう話し合った。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	医療連携で、看護師のケアマネージャーが入った事で、書類の作成や介護計画の見直し等、医療面での強化を図れるようになり、全職員でこれまでのケアについて振り返りを行った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では地元の色々な人と話し合いホームの思いを伝える場とし、家族をはじめ、地域の自治会長、民生委員、近隣者にも参加してもらい、情報交換、交流を行っている。会議を通し、近隣者も一緒に消防署員との防火訓練、消火訓練、煙体験を実施したり、リハビリの専門家を招き、日常のリハビリを共に学んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との意見の聞き取りや電話連絡はきめ細かに行っている。対応困難者についても家族や関係機関と相談しながら2年間支援し、家族の不安に対応した実績がある。運営推進会議等への家族の参加を勧め、相談や意見がより出し易い環境作りを心掛けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日課とする散歩をはじめ、広域連合と相談しながら地域住民の参加を図った運営推進会議、地域の小学校運動会を見学できるよう依頼したり、保育園児をホームの餅つきに招待している。又、神社の祭等地元ならではの交流、参加を大切に支援している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の人権を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供」をホームの理念にかかげている。	○	地域に密着したグループホームとして、入居者一人ひとりへのサービス、地域や行政との支えあい等の実績が構築されている。今後、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念作成への取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設5年半が経過し、利用者との信頼関係が構築され、地域住民との関係もホームの努力で密にある。管理者と職員は「利用者の可能な限り自立した生活を営むことができる」というケアの姿勢を同じくし、日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元との付き合いが古くからあり、自治会や地域からの誘いが多い。神社の夏祭りに利用者は作品作りから楽しみ、出店し、参加した。利用者が小学校の運動会を見学出来る様学校に依頼したり、保育園の餅つきに招待されるなど、子供達との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は前回の評価を活かしサービスの質の向上に努めた。今回は地域密着型外部評価であることを理解し、全職員で自己評価に取り組んだ。毎回評価を通し、1年間のケアを振り返り、全職員で話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、老人会長、広域連合職員、利用者の家族が参加、事業所の現状、取り組み等の説明や、地域からの質問、行政の報告を受けたり、家族の要望等を出してもらっている。消防署員や講師を招き協力を得、近隣の住民も参加する応急手当法や介護の学習会を実施している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内での生活支援への対応について、家族からの希望も踏まえ、広域連合の職員と相談しながら適切な施設への転居を支援した等、行政と連携して支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りは利用者全員で仕上げた作品をのせ、毎月家族に発送している。会計も詳細に報告し、家族の確認をとっている。	○	ホーム便りに、個々の利用者の状況を知らせる記事を掲載する等、家族の欲しい情報を発信する取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで苦情の申し出は無いが、家族の意見や要望は面会時や、電話での連絡時に聞き取り、その都度真摯に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットで開設以来、職員の大きな異動は無く、利用者とは馴染みの関係で、安定した継続的ケアが実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の外部での研修を奨励しており、外部研修の情報を多く収集できている。職員の研修への参加意欲もある。受講者は会議の場で報告し全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入している。又、近くのグループホームを訪問したり、研修会で仲間になった人達と情報を交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあったら、本人が見学したり、2～3日の宿泊体験をすることを勧め、相談しながら馴染んでいけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所仕事、洗濯たたみ、カラオケ、カルタ、白板への書き込み等、利用者の得意分野を發揮できる場面作りに努めている。生活歴やそれまでの体験での知識を教えてもらいながら、職員と共に過ごし、学んだり、支えあったりして生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その人の生活歴や今までの生活習慣を聞き、家族からの情報、日常会話等から把握している。意思表示が少なくなった利用者には職員が寄り添いながら支援している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の歩行能力を出来るだけ維持できるように、個別の目標立てを行い、全職員で取り組んでいる。年齢に合わせ、転倒防止や骨粗相症へのプランも合わせ支援している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別の課題に配慮した介護計画が立てられ、3ヶ月毎に、課題への見直しがされている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の希望に応じてかかりつけ医への通院支援を行っている。運営推進会議を活用し、地域住民も参加する介護の学習会を開催している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は比較的近い距離にあり、家族で対応できない場合は通院支援も行う。年1回の健康診断、インフルエンザ等も各自のかかりつけ医で出来る様支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対応する医療の契約を作成し入居時に説明を行い、その時期が訪れたら再度、意向や希望を確認し、家族も納得出来るよう配慮した支援が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は必要でない事は利用者の前で話さない様に心がけており、トイレへの誘導等も目立たずさり気なく介助している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、入浴、台所仕事等、一人ひとりがその日にしたい事を把握し希望に合わせ、その人らしく過ごせるよう個々のペースに沿った支援をしている。又、利用者、家族にお盆やお正月の外泊を勧め、半数以上が帰宅している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングの直ぐ前に畑があり、日々、野菜を職員と共に採り、食材として食卓に上る。包丁で野菜の下ごしらえをしたり、後片付けをする等、個々に能力を発揮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日があり、1対1で支援を行っている。立位が出来れば福祉用具を活用しながら家庭風呂での入浴を支援している。風呂場には緊急ブザーが設置されており、緊急時の対応にも配慮している。	○	更には、介護度が重くなってくることを予測した入浴方法の検討が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜を採ったり、カラオケ、トランプをする等、利用者一人ひとりが好きな事を日々の生活の中で楽しめる場面を作り、気晴らしが出来、張り合いや喜びのある毎日が送れるよう支援している。又、買い物や行楽等、希望に応じてドライブに出掛け、季節を味わっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気持ちを大切にしながら、近距離にある公園への散歩を毎日行い、気分転換、外気に触れる、歩行力の維持や地域の方と言葉を交わす支援等を工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、入居者は職員の見守りにより、開放的な環境の下で、ゆったりと生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を活用し、消防署長や署員の協力により、利用者や近隣者が共に参加する防火訓練、消火訓練、煙体験を実施した。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は個々に把握し、記録している。医師から指示のある利用者や、食欲の低下がみられる利用者にはきめ細かい支援をしている。	○	更には、一定期間、個別の摂取カロリーを把握したり、見直しをする取り組みが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、台所、座敷、廊下、リビングが解放的で自然換気が良く、居心地が良い。床の間のある部屋はいつも季節の花が活けてあり、来客のもてなしにも使っている。又、畳みの部屋には洗濯物をたたんだり、座って和んでいる利用者も見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力の下、箆笥や引き出し等の生活用品、小物や写真等も持ち込まれ、本人の居心地良い生活空間になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。